



## 12名のJET経験者が里帰り！ 地域との絆を深めました！

### 世界に広がるJETネットワーク

現在、全世界中に何人の元JET参加者がいると思いますか。その数はなんと6万人を超えています。JETプログラムは今年30周年を迎えますが、この30年間で多くの外国青年が日本で暮らし、さまざまな国際的な活動を地域で行って来ました。

世界にこれだけの数の日本をよく知り、地域に愛着を持っている人たちがいることはすごいことだと思いませんか。また、JETプログラムを卒業した彼らは、JETプログラムの同窓会組織「JET Alumni Association (JETAA)」を各地で結成し、さまざまな仕事をしながら、今もJETプログラム、そして日本との関わりを持ち続けてくれています。

JETプログラムの30周年を迎えるそのプレ事業として、昨年11月にJET経験者12人を日本に招待し、地域との絆の再確認と地域の魅力を発信することを目的として「JETプログラム経験者里帰り事業」を実施しました。

12人がそれぞれの任用されていた地域に再訪問し、さまざまな感動的な出会い、絆の再確認、そして情報発信などを行ってくれましたので、その様子をレポートします。

#### 1 国際会議

今回、里帰り事業に選ばれたのは12人です。

来日合わせて、東京で現役JET参加者(AJET)や国内JETAA代表などのJETの関係者を集めた国際会議(JET Alumni Global Forum)もクリア、総務省、外務省、文部科学省の共催で開催しました。30周年に向けた取り組みや今後のJETAAの活動などについて積極的な意見交換が行われました。

この会議がJETAAの国同士の交流のきっかけとなり、世界中の元JET参加者の「絆」が深まることを期待します。

#### 2 里帰り～感動の再会～

地方に里帰りをした12人すべての様子を報告したい



国際会議の様子

#### 滞在スケジュール

日程	場所	内容
1日目	東京	来日
2日目	東京	国際会議 (JET Alumni Global Forum)、AJET 意見交換会、総務副大臣表敬、全国知事会事務総長表敬、クリア主催レセプション など
3日目	地方	国内移動、各任用団体表敬等、ゆかりの地や地元の人々など訪問
4日目	地方	ゆかりの地や地元の人々等訪問
5日目	地方	帰国

のですが、ここではその一部の様子をお伝えします。

#### (1) 日本食を通じた地域との交流 (新潟県)

約10年前に西山町(現新潟県柏崎市)で外国語指導助手(ALT)として活躍したアイルランドのフィオナ・ウエマさんは、この日本での体験がきっかけとなり、現在、日本料理研究家として活躍しています。

今回、「My Japanese Food Journey in Niigata」をテーマに、西山の料理とアイルランド風日本料理を通じたイベントや任用されていた学校への訪問などを通し、旧友や学校の生徒など地元の方達と交流を深めました。

また柏崎市役所に訪問した際には、本間敏博教育長から「柏崎の料理を世界に広めてほしい」と激励を受けま



日本酒の魅力を再確認

した。

「今回の体験を通して本を執筆し、日本食を発信したい」と話してくれたフィオナさん。柏崎市の食を世界に発信をする一つのきっかけになってくれることでしょう。

## (2) 文化、教育で日本と中国をつなぐ（鳥取県）

中国から参加した趙函宏さんは、現在中国北京市で日本語教室を開催する一方、日本へ旅行や留学する中国人のサポートをする仕事をしています。

今回、10年ぶりに国際交流員（CIR）として働いていた鳥取県米子市へ里帰りました。

米子市では、市役所の表敬訪問、中国語教室、歓迎会を通じて、当時の同僚、中国語教室の教え子、友人と再会。感極まって涙を流してしまう場面があちこちで見られ、彼女が米子市に多くの「絆」を作っていたことが実感できました。

もちろん、新しい「絆」を探すことも忘れてはいません。米子市地域起こし協力隊との意見交換、米子皆生グランドホテルの視察、どら焼き生産量世界 No.1 の製菓工場の見学を通じ、確実に新しい「絆」の種を見つける



歓迎会にて当時の同僚や中国語教室の教え子と感動的な再会

ことができた様子でした。

## (3) JETAA ネットワークで熊本をアメリカに PR（熊本県）

熊本県の阿蘇市で外国語指導助手（ALT）として活躍していた、アメリカ出身のマーク・フライさん。マークさんは帰国後も、積極的に熊本や阿蘇の海外 PR に取り組み、その仕事ぶりが評価され、2014 年に熊本の PR を行う「モンバサダー」として任命され活躍中です。

今回の里帰りでは、マークさんのおすすめ観光スポットを訪問し、SNS による PR を行いました。街に出ると、地元の方より阿蘇の歴史に精通し、どこに行っても旧友や教え子などに話しかけられおり、マークさんがいかに阿蘇市を愛し、地域に溶け込んでいたかということがわかりました。

自治体の観光 PR などに関して、SNS 以上に貢献できるツールがあるというマークさん。「海外 PR を行う最高の武器は、世界中の 6 万 2 千人からなる元 JET 参加者と JETAA のネットワークです」と話してくれました。そのネットワークの力を地域の方に伝えるため、阿蘇市役所で「市庁舎ミーティング」を開き、マークさんが会長を務めているカリフォルニア北部の JETAA 支部の活動などを紹介し、地域の方々や行政関係者と意見交換をしました。

参加した熊本県職員からは「阿蘇のことを世界に広めてくれてありがたい。他の自治体にも JETAA の力を知ってもらいたい」との声が上がりました。



盛り上がった市庁舎ミーティング

## 3 つながり新たなステップへ

このように、JET 参加者は母国へ帰国後も、日本、地域に対して特別な思いを持ち活躍してくれています。今後も知日派、親日派外国人としての彼らの活躍を期待します。